

城北新聞

第70号

鳥取城北高等学校
新聞部

鳥取市西品治848

I H特集号

各部健闘！ 夏に輝く



5年振り3度目の団体優勝を決めた本校相撲部
(鳥取市布勢 鳥取県民体育館)

全国高校総体(インターハイ)「2016情熱疾走 中国総体」(以下IH)が中国地方各地で行われ、本校からは5競技が参加、熱戦を展開した。

大森太菜さん 目標達成

陸上男子3000m S C 8位入賞



表彰される大森さん
(写真右)

決勝は酷暑の中、14時スタート。顧問の西亀剛史先生は「最後まで諦めず1人抜いて8位を決めた。初のIH、よく頑張った」と称える。大森さんは「緊張はなかった。諦めず前を追ったのが入賞につながった。8位は目標だったのでうれしいが、自己新が出なかったことが悔しい。ラスト1000m、もっと頑張りたい」と振り返った。

地元鳥取県開催で優勝を求められるプレッシャーの中、本校相撲部は5年ぶり3度目の団体優勝の栄冠に輝いた。また、個人戦では竹内宏晟が3位、アマルサナーが5位、岩永俊が32位と好成績を収めた。選手全員がケガを抱えながらも、チームワークと地元の大応援を味方にして実力を発揮、最高の結果を得た。また、陸上男子3000m S Cで大森太菜が最後まで諦めないレースで8位入賞と健闘、水泳の横山雅が50mと100mで19位、女子ソフトボールは高校ナンバー1投手に対して善戦するも1回戦で涙を飲んだ。ボクシングでは坂本翔がバンタム級で初出場したが、1回戦で敗れた。

地元の鳥取県開催で優勝を求められるプレッシャーの中、本校相撲部は5年ぶり3度目の団体優勝の栄冠に輝いた。また、個人戦では竹内宏晟が3位、アマルサナーが5位、岩永俊が32位と好成績を収めた。選手全員がケガを抱えながらも、チームワークと地元の大応援を味方にして実力を発揮、最高の結果を得た。

「選手たちは信じられない精神力。地元の応援が背中を押してくれた。全校生徒の皆さん、私はいつも『やればできる』と言うが、あきらめずに一生懸命やれば必ずチャンスが生まれる。今回の優勝から、皆さんにこのことを伝えたい」。

石浦外喜義 校長
(相撲部総監督) の話



皆さんに伝えたい

群青

我々新聞部は、全国高校総体の相撲競技を2日間、取材した。鳥取城北は相撲の強豪校として知られているので、地元開催の本大会はずいぶんプレッシャーだったはずだ▼私は主に写真担当だったので、土俵際で試合を観戦することができた。選手に近い場所は、伝わってくる熱気もすごかった▼特に団体戦は盛り上がった。地元開催ということもあり、本校の出番のたびに大きな声援が巻き起こった。ソフト部や野球部、保育園の園児たちまで応援に駆け付けた▼印象深いのが決勝の副将戦だ。ライバル埼玉栄に対して、副将が勝てば優勝が決する一番だった。会場は緊張した空気に包まれ、カスラを構える私も固くなった。優勝が決まった瞬間、側で見ていた相撲部員たちが土俵に上がりそうな勢いだった。駆け寄って抱き合ったり叫んだりして喜ぶ姿を見て、私も嬉しかった▼スポーツでこんなに熱く感動したのは初めてだった。私たち新聞部は、この先もたくさん仲間たちの喜怒哀楽を取材するはずだ。多くの人の「こだわり」をしっかり伝えたい。

我々新聞部は、全国高校総体の相撲競技を2日間、取材した。鳥取城北は相撲の強豪校として知られているので、地元開催の本大会はずいぶんプレッシャーだったはずだ▼私は主に写真担当だったので、土俵際で試合を観戦することができた。選手に近い場所は、伝わってくる熱気もすごかった▼特に団体戦は盛り上がった。地元開催ということもあり、本校の出番のたびに大きな声援が巻き起こった。ソフト部や野球部、保育園の園児たちまで応援に駆け付けた▼印象深いのが決勝の副将戦だ。ライバル埼玉栄に対して、副将が勝てば優勝が決する一番だった。会場は緊張した空気に包まれ、カスラを構える私も固くなった。優勝が決まった瞬間、側で見ていた相撲部員たちが土俵に上がりそうな勢いだった。駆け寄って抱き合ったり叫んだりして喜ぶ姿を見て、私も嬉しかった▼スポーツでこんなに熱く感動したのは初めてだった。私たち新聞部は、この先もたくさん仲間たちの喜怒哀楽を取材するはずだ。多くの人の「こだわり」をしっかり伝えたい。

(湯村)

「らしさ」貫き 竹内 個人3位 アマルサナー5位 入賞

優勝選手 インタビュー

先鋒 当真嗣斗 (F1-11)
「先輩方が出場したいところを1年生の自分が選ばれたことを忘れずがんばった。自分は体が大きい、筋力や下半身が弱い。まだまだ足りないと感じている」



巨体が頼もしい1年生、当真選手

中堅 石岡弥輝也 (F2-9)
「ケガは正直、不安だったが痛いなどと言っただけで負けてもこのチームには和がある。仲間を信じていた。足が痛いので、逆にあれこれ考えず、ただ自分の相撲をすることしか考えなかった。」



ヒザをケガしながらも団体決勝トーナメント無敗と大活躍の石岡選手

同郷(青森県)の先輩である越後谷さんが優勝を決める3点目を挙げ、うれしい」

副将 越後谷知樹 (F3-3)
「本番で勝ててうれしい。夢みただ。この日のためにやってきた。今の3年生は、1年生の時から『俺ら3年の時はここでインターハイがんばろう』と言っていた。みんなで盛り上げ、雰囲気よかった。ケガや不調の者がいても、みんなで点を取ろうと話していた。気持ちで勝った」

大将 マルトゥップシン・アマルサナー (F2-7)

「決勝は2対2の接戦で自分に回ってくることも覚悟していた。心の中で『城北は強い。自分は絶対負けない』と繰り返し唱えた。自分は相手のまわし、前みつを取ってから力を出せるタイプ。今日はそれが出来た。立ち合いではどんな相手でも、『必ず倒す』という思いを目で伝える」



眼光鋭いアマルサナー選手の立ち合い

気持ちでつかんだ団体優勝(5年ぶり3回目)



副将が勝ち、団体優勝が決まった瞬間。会場が歓声に飲み込まれた

竹内 愚直に前で勝負

8月4日、個人戦決勝トーナメントが行われた。この日は女子ソフトボール部員たちが大きな声で相撲部員に声援を贈る。

予選を勝ち抜いた2人が、体重での階級分けなしで勝ち負けを決する。巨体に交じり、細く見える岩永俊選手がいた。173㎝、体重85㎏は相撲の世界では小兵。見事な戦いぶりです。ベスト32を勝ち取ったが、決勝トーナメント1回戦で敗れた。

優勝候補のアマルサナー選手は不本意な5位。「動きは悪くなかったので残念。団体決勝トーナメントでは初戦から気合を入れる」と翌日の団体での活躍を誓った。



個人32強入りした岩永俊さん (F3-6) 闘志あふれる試合だった

山口怜央選手(津島高・愛媛)はそのまま個人優勝。「竹内君は前から当たる圧力が強い選手。自分は逃げなかつた。立ち合いが上手いきき、右上手を取って前に出る自分の相撲ができたのが勝因」と準決勝を振り返る。

宏哉選手。「ベスト8あたりから優勝を意識した。準決勝の相手、山口怜央君は高校に入ってから1勝1敗。勝ちたかったが、3位は自信になった。団体ではポイントゲッターの役目を果たし優勝する」と話した。

この写真に注目!



新聞部は、この1枚をベストショットに選ぶ。団体戦決勝の大事な場面で勝利し、喜びを爆発させる竹内選手。この日、苦しんだ竹内選手だけに、印象的だった。

竹内宏哉 (F3-6)
「(団体戦 決勝トーナメントについて) 3連敗して情けない。自分が勝利への流れを作りたい。準決、決勝の相手は1年生だったので、負けるわけにはいかなかった。決勝で越後谷さんが3点目を挙げた時、汗と涙で前が見えなくなった。誰と抱き合ったかわからない」

竹内博司さん(お父さん)
「(個人戦は) あそこまでいくとは……。個人3位、団体優勝は今後の人生で大きな自信になる。ほんまにやれるんか、と不安一杯で鳥取に送り出したが、この学校で育ててもらった。先輩後輩にも恵まれ、親として満足」と涙を流しながら話した。

1回戦	鳥取城北	3-2	福井農林(福井)
2回戦	鳥取城北	4-1	隠岐水産(島根)
準々決勝	鳥取城北	4-1	明德義塾(高知)
準決勝	鳥取城北	3-2	海洋(新潟)
決勝	鳥取城北	4-1	埼玉栄(埼玉)



ケガ乗り越え みこと団体優勝

団体戦の予選を2勝1敗で勝ち上がった本校は5日、決勝トーナメントに臨んだ。予選はOBの大学生が試合前の調整役を務めていたが、本選からはガントウクス先生自ら真っ白なまわしを締め、胸を貸す。気合充分だ。硬式野球部員80名近くが大声で統制のとれた応援を始めた。

1回戦、緊張からか選手は動きが固く、福井農林高に對し3-2と辛くも勝利した。2回戦からは市内の「むつみ保育園」の園児34人が手製の横断幕を持参、「城北がんばれー」という可愛らしい声援も後押しした。隠岐水産高に4-1で圧勝した。

続く準々決勝は強豪の明德義塾高だ。総監督の石浦校長も立ち上がり指示を出す。会場は一気に城北への声援が大きくなる。応援では完全に相手を飲み込んでいた。勝利し勢いに乗り、4-1で勝利した。

準決勝、新潟の海洋高との一戦、先鋒の当真選手との対戦は前日の個人戦で1年生ながら準優勝して勢いに乗る中村選手。激しくノドを押すが、当真の巨体が見事に一回転、士気がついた。

次鋒の竹内は決勝トーナメント3戦3敗と不調。初めて先鋒が負けてきた流れで戦いぶりが注目された。立ち合いのみにらみ合いで竹内の太ももが大きくふくらみ、低い姿勢でぶつかった。前へ押し出して1-1とした。石岡、越後谷が勝ち、3-2で決勝へ駒を進めた。

決勝戦の相手は宿敵の埼玉栄高。石岡と越後谷は決勝トーナメントを無敗で通している。城北への大声援が巻き起こる中、先鋒当真が敗れる。



自らのポイントで優勝を決めた直後、ガッツポーズする越後谷主将

ソフト部 堅守目指し始動

ソフトボール結果

1回戦
鳥取城北 3-6 多治見西
(岐阜県)



キャプテン
大谷朋世さん (F3-7)

「相手はいい投手だったが、速球対策が上手くいき、勝負できた。失点が多く、反省している。この経験を活かし、後輩たちには全国で勝てるチームになって欲しい」

次期オリンピック候補の投手を擁する多治見西高との対戦は苦い結果となった。
キャプテンの大谷さんは「点を取った直後に取り返され、守備からリズムを作り切れなかった。ロススコアの展開に持ち込まなかった」と残念そう。
監督の小川浩司先生は、「相手投手への対策が上手く言った点は評価できる。県大会から失点が多かった。堅守に磨きかけたい。1年生バッテリーが今回の大舞台を経験したことは大きな収穫となるはず」と今後の展望を語った。

第64回中国高等学校選手権大会水泳競技会

7月21日～24日
山口県

横山 雅

50m 自由形 3位、
100m 自由形 2位

2種目 1H出場権獲



2年連続出場
横山 雅さん
(F2-10)

女子自由形
50m 19位
100m 19位 (自己ベスト更新)

横山 雅さんの話
「ベストは尽くした。私は足に自信があるが上半身を鍛えて次回は決勝に残る。タイムは少しずつしか伸びずもの足りないが、だからこそベスト更新はうれしい。今年は国体で決勝に残り、鳥取県のために得点を取りたい」。

水 泳

横山さんリベンジ誓う

西川 淳先生の話
「リオ五輪選手強化の年なので、今大会はレベルの高い大会だった。自己新も出て、よく頑張った」。

全国大会 文化部

別紙で紹介する予定です。

- 地歴部 (全国高校社会科研究発表大会)
- 書道部 (ひろしま総文、全国高校書道パフォーマンス甲子園)
- 新聞部 (ひろしま総文 全国紙面審査賞 優良賞)
- ボランティア部 (高校生全国手話パフォーマンス甲子園)



ボクシング 坂本 翔さん (F2-8)

バンタム級 1回戦

坂本 翔 × - ○ 保坂優太郎
(秋田 金足農)

坂本 翔さんの話
「相手の攻撃に足が止まってしまった。力が出せず悔しい。これから頑張る」。
前田倫宏先生の話
「1日初出場で固くなったか。県大会の時とは動きが違っていた」。

初戦敗退「これから頑張る」